

建設業から農業参入 ～地域に活かされ地域に貢献～ (株式会社大和建设)

＜法人の概要＞

所在地：岡山県真庭市

設 立：昭和44年10月

資本金：2,000万円

売上高：3億8千万円（平成25年）

（うち農業関連事業：1千2百万円）

役 員：3名（うち農作業従事1名）

従業員数：20名、うち農業従事者2名

経営面積：15.0ha

営農作物：水稻、大豆

農業開始時期：平成20年

作付作物：米7.5ha、大豆5.6ha



水稻収穫風景



山間農地も受け入れて

＜農業参入に至った経緯・動機＞

- ・ 農業参入当時は公共事業の減少傾向が始まり、優秀な従業員を確保しておくためにも、会社として新たな事業展開が求められていた。
- ・ 農業従事者の高齢化に伴い離農希望農家が増え、代表取締役の父にも3haの農地の相談が寄せられていた。そこで、会社として農業経営に取り組むこととした。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

- ・ 平成19年に40aで「青大豆」を試験栽培し、平成20年から本格的に農業参入した。
改正農地法を活用し、一般法人として農地面積の拡大を進めた。
- ・ 当初は、関係機関（真庭市・JAまにわ）と相談し、地域特産品である「青大豆」が供給不足であることから有利販売が可能と考え、作付を開始した。現在では、借入地が増加したことから、機械の有効活用及び労働分散を図るため、水稻部門も設立している。
- ・ 地域の生産組合に加入し（大豆用コンバインの活用）、JA等（ライスセンターや大豆の乾燥・調整等）の協力も得、外部委託も活用し、新たな機械への投資を抑えながら、農業分野の事業拡大を進めた。

＜営農開始から現在まで＞

- ・地域の湯原農産物生産組合に加入し、栽培講習や現地研修を受けるとともに、ＪＡ等の営農指導員から助言を受けながら経営を拡大した。大豆の連作田では、収量・品質が低下してきており、水稻との田畑輪換を導入している。
- ・借り受けた農地は、大豆栽培に不適切な湿田も多く、国の企業等農業参入支援推進事業を一部で活用しながら、建設業の強みを活かし暗渠や排水溝等、簡易な土地基盤整備を進めた。
- ・条件の悪い農地も断ることなく借り受けるなど、数年間の実績から地域で認められ、農地の借地が増加している。

また、地域からの信頼が増してきたことから、建設業でも仕事がやりやすくなっている。

- ・大豆の販路は、地域の生産組合やＪＡへ出荷し、味噌や豆腐に加工し販売している。

また、独自に販売先も開拓し、一部を岡山市内で販売している。

参考：青大豆（キヨミドリ）は、真庭ブランドに認定されている。

(<http://cms.top-page.jp/p/maniwa/maniwabrand/1/10/>)

＜今後の農業経営の展開方向＞

- ・現在、約２人の労働力で対応しており、今後３人まで増加させたい。
そのためには、経営規模２０ｈａを目指している。
- ・作物は、大豆の連作障害による収量低下に加え、本業（建設業）が忙しくなっていることから、本業との競合分散も考慮した作目選定が求められている。
地域でも作付がある「そば」に注目しており、販路等も考慮しながら検討している。
- ・急激な規模拡大よりも、ほ場条件も考慮しながら面的集積を進め、更なる効率化を図る。
- ・加工等も踏まえた６次産業化も視野に入れて事業展開を進めたい。

＜今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス＞

- ・建設業から新たに事業展開をする場合、どうしても初期投資が必要となる。
そのため、本業に余力のある時に参入する方が、資金繰り等のリスク管理がしやすい。
また、地域との繋がりを大切に心がけている。



収穫された「青大豆」



大豆 播種風景